

2. SR 新生物（乳がん患者の疲労）

文献

Cramer H, Lange S, Klose P, Paul A, Dobos G: Can yoga improve fatigue in breast cancer patients? A systematic review. *Acta Oncol* 2012, 51:559-560.

1.背景

疲労は乳がん、そして治療による最もよくみられる症状である。その一方で、ヨガは乳がん患者に対して最もよく用いられる相補医療である。

2.目的

乳がん患者の疲労に対するヨガのエビデンスを評価すること。

3.検索法

データベースは Pubmed/Medline, EMBASE, the Cochrane Library, PsycINFO, CAMBASE を用い、2011年9月まで調べた。検索用語は yoga, fatigue, breast, cancer or neoplasm。さらに International Journal of Yoga Therapy の目次を検索。

4.文献選択基準

ヨガが乳がん患者の疲労に及ぼす効果を検討した RCT。

5.データ収集・解析

バイアスリスクは Cochrane risk of bias tool を用いた。出版バイアスは funnel plot を用いた。疲労スコアより standardized mean difference (SMD), 95%CI を求めた。研究間の異質性の検討は I^2 statistics を用いた。

6.主な結果

6件の論文(362人)が抽出された。RCTはヨガの伝統、介入期間の長さ、コントロール群、疲労スコア、疾患の特性と言う観点で異質であった。コントロール群に比べヨガは有意に、より疲労感を改善した(SMD = 0.33, 95% CI 0.01 - 0.65, $p = 0.04$, $I^2 = 49\%$)。論文数が少ないため、funnel plotから出版バイアスを求めることはできなかった。

7.レビューアの結論

ヨガが乳がん患者および乳がんサバイバーの疲労を改善するというエビデンスはある。しかしながら、このエビデンスはバイアスリスクによって制限を受ける。異質性は許容範囲内ではあるが、研究数が少なく、全ての研究で、それぞれいくつかのリスクがある。出版バイアスのリスクも除外できない。

8.要約者のコメント

岡 孝和 2015年10月1日